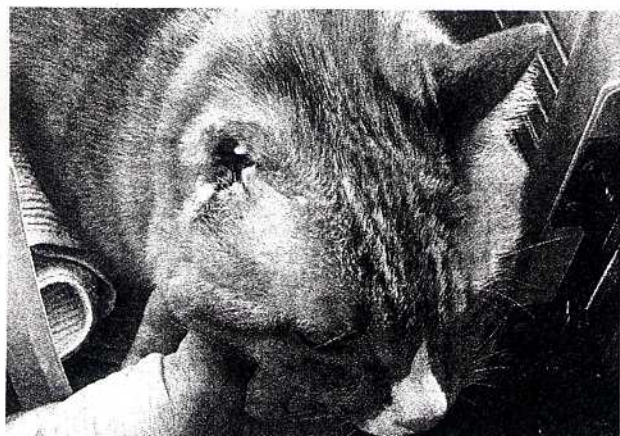


受動喫煙でがんの恐れ

たばこがペットに与える影響とは。



①皮膚がんになり右耳を切除した猫②飼い猫を抱えてたばこを吸う人もいる—いずれも石丸昌子さん提供

和歌山市の石丸動物病院に昨年6月、1匹の猫(オス、6歳)が運び込まれた。数日間エサをまったく食べないという。体からたばこにおいがしたため、副院長の石丸昌子さん(56)が理由を聞くと、飼い主の自宅は美容院で、猫は灰皿を置いていた待合室によく出入りしていたらしい。

触診で腸のあたりに異物を感じたことから、石丸さんは飼い主の承諾を得て体を切開。腸に複数の腫瘍を見つけた。大きなもので1疔。既に手の施しようがなかった。病理検査で悪性リンパ腫と判明した。

猫は食欲が戻らないまま、数日後に衰弱死。検査では因果関係まで特定しなかったものの、石丸さんは「受動喫煙の影響が大きかったのではないか」とみている。飼い主は「たばこが動物にも悪いと知っていたら、待合室に入れなかったのに……」と肩を落とした。

＊

ペットの健康にも同じような影響を与えることについて、飼い主の関心は低い。ペットの受動喫煙に関する研究は米国でいくつかの発表事例がある。マサチューセッツ大が93～00年に実施した調査によると、家庭内で副流煙にさらされた猫が悪性リンパ腫になる危険性は、さらされていない猫の2・4倍。その環境が5年以上続く、3・2倍に上がるとされる。

また、コロラド大が92年に発表した研究では、喫煙



飼い主に禁煙を呼びかけるバッジ

の粒子は空気中で下降するので、体高の低いペットは人間より影響を受けやすい。ニコチンは血管を収縮させるため、特に心疾患のある小型犬は注意が必要だ。

ただし、ペットの前でたばこを吸わなければ大丈夫。世界保健機関(WHO)は06年に「すべての医療従事者による禁煙活動」というスローガンを打ち出した。石丸さんは日本の医師会や看護師会が賛同する一方で、動物医療関係団体の名前がないことに違和感を覚え、活動を始めたという。

有害物質 床近く滞留 ■「危険3倍」調査も

者に飼われている犬ががんになるリスクは通常の1・6倍。特にダックスフントのような鼻先の長い犬種は鼻腔がんの発症リスクが高まるとの結果が出た。

これまでの研究によると、煙に含まれる有害物質

夫、というわけでもなさそうだ。例えば猫の場合、毛繕い(グルーミング)をする際、室内に残った有害物質を無意識に口に入れてしまう。さらに喫煙者の呼吸は一酸化炭素が多く、抱っこした飼い主の息がかかるところに体調を崩すケースもあるという。

＊

石丸さんは大阪コミュニケーション専門学校(大阪市西区)のゼミで動物看護師を目指す学生を指導する傍ら、飼い主に禁煙

「家族の一員として暮らす動物たちを受動喫煙被害から守ることは、動物医療関係者の使命です」
ゼミの学生は今春から動物病院で動物看護師として働き始める。小浦ひかりさん(20)は「喫煙とペットの健康を結びつけて考えられる飼い主はまだ少ない。言葉が話せない動物たちの気持ちをうまく代弁できるようにになりたい」。岸上勝彦さん(20)は「ペットと暮らすことが禁煙のきっかけになるといい」と話す。

【水戸健一】